



恋え わづらい

十八禁

Toukenranbu Fanbook #02

Tsurumarukuninaga*Itigohitofuri

edited by 362





嗚呼、早く...

君のナカで
果てたいなあ...

ひゅっ...

ちゅっ

一期...

あ、あ...





駆け抜ける
ような熱に
犯される



身体が勝手に
感じ入って
しまっつて



：好きです
国永様



ん…や、です…

そんなあ
声で…っ

ああああっ



ああ、
愛らしいなあ…



いい声で
鳴くようになった
じゃないか

たまらない



それ、だめ、だ、
ああ、あ…！
へんになる、う…！

いち…っ
もう、っ



いち…っ





嗚呼

愛おしい

なによりも
甘美なこの時間が



は
あ…

昨夜はあんなに、
あられもない
声をあげて

はしらないと
思われたらどうか…



鶴丸殿と恋仲にな
もう幾度か
身体を重ねたが



あんなに、乱れて
しまったのは
初めてで…



途中、何も
考えられなくなつて…



身体がおかしく
なったのは、そう







いいけません
このような場所で……

おいおい

昨日の今日だぜ？



んっ、



寂しい事を
いうなよ！

お、

明るいうちから
睦み合うのも

また一興：



珍しく弟達も
遠征で不在のようだし





鼓膜を撫でるように
侵入し全身を駆け巡る

誰にも
聴かせる事はない
自分だけの

まさか、

声で

欲情してしまったなんて



一期一振の

様子がおかしい



聞いてくれるか…
この哀れな爺の話…



ここ数日なぜか
一期に避けられて
いるんだ！

小狐丸や
まだ
いませんよ

どうで
あつたか？

話かけても
適当にあしらわれ
まともに話も
できやしない！

隠密一振

一日姿を
みない日もある



唐突だね
鶴丸さん…
一体どうしたの

もうだめだ
大便利伽羅！

心が死ぬ！
慰めてくれ！

おい、邪魔だ
やめろっ
俺にかまうなっ

はいはい鶴丸さん
絡まないの

だけど一期くんが
そこまで
避けるなんて
珍しいね

どんな悪戯して
怒らせたの？

それも
どうなんだろう…

誤解だ、俺は何も
しちやいない！
というか心当たりが
ありすぎて
正直わからん！

ん〜でも、

理由なく一期くんが
鶴丸さんを
避けるなんて、

ちよつと
ありえない
よねえ

だが、本当に
検討もつかん。

こうも毎日
あからさまだと
俺も流石に傷つくぞ

ふん…
愛想を尽かされた
だけだろう。

ハツ…

ともかく、まずは
冷静にちゃんと
話し合ってみなよ

すれ違った
ままなんて、
かっこ悪いよね

もしかして、
他に情を通じた
刀が…？

まさか
三日月とか…？

近う寄れ
おんな
おんな

ああそなたな
そうだろうな様

「ごごごご」
不安を煽らないのっ

しかし、
どうすれば…

…得意の

驚きはとうした？







一度意識すると
恥じ入ってしまう、

どうにか忘れたくて
彼との接触を
拒んでしまった



だけど、消えない

脳内に、鼓膜に
こびり付いた
彼の声に

身体の熱は爛り続け
一人で慰めても
満たされない

むしろ

どんなに逃げても
引き寄せられていく



ただの声でさえも
こんなに乱される程

あの方に
焦がれているのだ

情けない…
鶴丸殿にきちんと、
謝罪をしなければ…

あゝ



えっ…





いいだろう、
とある筋から
得た案だ

ところで久々にみる
君の驚いた顔はあ
やっぱいいいなあ

よくないです！
思い切り頭を
うちましたぞっ

強でて
やろうか

いりません！

というか、
退いてください…

一期

何故、俺を
避けていた？

俺は何か、
君の気に障る事を
しただろうか

それとも、

ほかに情を交わした
相手でもできたか…？











寂しかったの
ですか？

…そうだとしたら、
慰めてくれるか？



そのように
強請られて



拒むことができれば
ようか







水面におちる
雫のように
広がっていく声に

そのうち貴方も
私の声の虜に
なってくださいませ



今日も、明日も、ずっと、
惹かれて囚われるだろう



…そいつは驚きた



恋

え

患

い